

■令和4年度 市長をかこむ会

日土東地区 R4.8.30 (火)

19:00~20:00

場所: 日土東地区公民館

出席者	住民	16人	市 大城市長・二宮市民福祉部長 政策推進課 成田補佐・松浦係長
-----	----	-----	------------------------------------

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
生涯学習課・政策推進課	※事前質疑 地区複合施設(体育館・グラウンド・旧保育園)の定期的な点検と修繕について	昨年要望していた複合施設(体育館)踊り場1か所のひび割れについては、「建設課建築担当職員と現地確認を行い、必要に応じて修繕を検討したい」との回答であった。その他にも体育館の樋に土砂が堆積し、雨水が流れない状態になっている。 また、グラウンド斜面のコンクリートに亀裂が入っている箇所や複合施設周りの陥没箇所、鉄板の腐食、旧保育園内のひび割れ等ともに素人では土砂の取り除き、亀裂改修が非常に困難である。両場所とも本地区にとっては、避難所等非常に大切な場所であるので、定期的な点検と補修等、ぜひ専門家に見ていただき対応をお願いしたい。	昨年度要望があった複合施設(体育館)踊り場1か所のひび割れについては、修繕を行った。また、グラウンド斜面のコンクリートの亀裂、樋の土砂については、現地確認を行い、必要に応じて、亀裂改修、土砂の撤去を行っていきたい。 陥没箇所については、現地確認を行い、なぜ陥没しているのか把握し原因を究明した上で改善・改修を行う。 旧保育園部分については、遊戯室内外のひび割れを確認した。現在、地域おこし協力隊が不在となっており、旧保育園部分の活用方法は未定となっている。安全性の確認は必要となるが、今後、協力隊を採用する等、新しい方向性が見えた段階で亀裂等の修繕をスタートしたい。
子育て支援課	※事前質疑 少子化に対する市の現在施策(今後も含む)について	2021年の国の出生率は1.3である。少子化対策は国・県でも喫緊の課題と思われるが、出生率の高い自治体では様々な支援(給食費・医療費無料等)を行っているという。市の出生率はどれぐらいのものか、それを踏まえたうえでの子育て世代に対する支援等、今後の施策をお聞かせ願いたい。	厚生労働省の人口動態統計による合計特殊出生率について、市区町村の直近となる平成25年から29年までの5年間の数字は、国が1.43、愛媛県が1.53、市は1.53となっている。 なお、昨年の数字は、国が1.30、愛媛県が1.40となっており、県内各市町の数字は公表されていないが、国、県と同様に市の数字も以前に比べ低下しているものと思っている。 近年の子育てを取り巻く環境については、核家族化が進み、地域とのつながりが希薄化しており、親が身近な人から子育てを学んだり助け合う機会が減少し、家庭で子どもを養育する力や教育する力が低下していると感じている。市では、病児・病後児保育事業といった保育サービスの充実や、中学生までの医療費無償化による経済的支援など、様々な子育て支援策に取り組んでいる。一方で、地域が主体となった「子ども食堂」や「放課後見守り事業」など、地域で支えあう様々な子育て支援策も展開されている。子どもたちが豊かな心を育み、安心して子育てができるように、今後も、家庭、地域、行政が一体となって、市の子育てを支援していきたいと考えている。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
政策推進課	※事前質疑 今後、子や孫世代に対する 市政の長期ビジョンについて	人口減少に伴い、市内端々における地域が今後、高齢化が進み限界集落となるとよく耳にする。今後市内の端々における市政の長期ビジョン、施策をお聞かせ願いたい。	人口減少対策は、市の最重要課題の一つだが、これは多くの自治体にとって非常に重い問題で、企業誘致等の直接的な施策だけでは解決しづらい問題である。また、日本全体として少子高齢化による人口減少が進行する中で、一自治体のみが一気に改善できる名案というものはないような気がする。 当面の市の施策としては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、現在行っている住環境整備（空き家バンク、民間賃貸住宅整備、家賃支援）、子育て支援（不妊治療助成、病児病後児保育）、雇用施策（新規創業支援、Uターン移住者承継）、結婚支援（愛結び、出会いイベント、オンライン婚活）を行っている。また、地域おこし協力隊の配置等、様々な取り組みを継続するとともに、併せて可能な限り新たな施策も検討するなど、人口減少を緩やかにするための取り組みを地道に進めていくしかないと思う。 市内には人口減少が特に顕著に現れている集落などもあるが、それぞれの地域は市の歴史や文化を形作ってきた、大切な存在であり、今後は地域コミュニティのあり方も含め、地域を将来にわたり持続可能な形で維持するにはどうすればよいか、地域の方々にも主体的に関りを持っていただきながら、より大きな視点で検討していく必要があると考えている。
生活環境課	※事前質疑 家庭ごみ収集における回収 ごみ袋について	現在9分類で市指定のごみ袋、又は無色透明の袋でごみ出しが行われている。そこで無色透明の袋で出すごみについて、わずかに色のついた袋で出すと警告シールが貼られ回収していただけない。 そこでお願いだが、無色透明袋においても市と書かれた指定の袋に改善できないものか。市販されている透明袋はまちまちで単価が高く僅かな色であれば透明と一般市民は勘違いしごみを出してしまう。それを回避するためにも市と書かれたごみ袋を設けるべきではないか。	まず、無色透明の袋に指定している理由について説明すると、収集の際に「びん類」「かん類」「ペットボトル」「プラスチック製容器包装」がきちんと分別されているかの確認を行うが、その確認作業が手間取らないように無色透明の袋をお願いしている。質問では、資源ごみ用の無色透明袋を作るべきではないかとのことでしたが、「びん類」「かん類」「ペットボトル」については、袋自体がごみにならないよう、コンテナで出すことも認めている。 資源ごみ用の無色透明袋を作ると、それらの方と負担の公平性が保てなくなる。また、袋を作るということは、価格がかかるので市販の透明袋より割高になってくる。 お店で無色透明袋を購入される際、外袋には「透明」や「半透明」と書かれているので、「透明」と書かれている袋を購入していただいたら、余計なお金をかけなくてよいと考えるのでご協力をお願いしたい。
政策推進課	日土東地区の 今後の支援について	わくわくする八幡浜・みらいプロジェクト等すばらしい市政運営をされていると感じている。また、日土東保育所の園庭がすばらしい駐車場となったことにも感謝している。今後もへき地である日土東地区が明るい未来となるように、ぜひ愛の手をさしのべてほしい。	40年以上秋祭りを盛り上げてきた方々が、八幡浜のてやてや音頭を残して後世に伝えていきたいという思いで、自分たちで実行委員会を立ち上げて市の協力もいただきたいという話を受けて9月の議会にててやてやの予算を計上した。市民が手を上げたものに、市として後押しができるので、日土東の方が手を上げていただければ後押しすることができる。課長会でも来年度の予算編成にあたり、夢のある事業（市民の思いが叶う事業）を考えてほしいとお願したところである。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
建設課	山からの雨水対策等について	山から流れてくる水がずれ込んで家の方に流れ込んでいる。管轄は県になると思うが市でできることはないか。山道の水が家の下に入ってきた場合に側溝の補助等できないか。	管轄が県なので対策等の工事は難しい。市としてはイエローゾーンやレッドゾーン等のマップにより、いざという時の避難や避難するにはどうしたら良いかを周知するのが役目である。家に水が入ってくるようなことがあれば、建設課が現場確認をした上で対策をするので連絡をしてほしい。 【補足】 当地区は農林水産省所管の「地すべり防止区域」に指定されている。昨年度から日土二期地区として樫ノ木地区地すべり対策事業の実施が行われており、当箇所においても対策工事が計画されている。今後、何か問題が発生した場合は、関係各部署と連携を取りながら対策を検討する。
政策推進課	販売出店スペースの確保について	交流館の日曜日等で日野出豚のメンチカツを売っているが、最近ではコロナの関係で中止になったりもしている。その際テントを張って出展ブースを作っているが、みなっとの海鮮丼の所等に屋根のある出展ができるブースを新たに設置することはできないか。	八日市で銀座商店街に若干のスペースはあると聞いている。みなっと10周年のリニューアルの際にアゴラマルシェ(民設民営)と連携しながら出店スペースが取れるかどうか検討していきたい。